

校長室通信



令和7年3月3日
羽咋市立羽咋中学校
校長 宮下 裕樹
第11号

令和6年度を振り返って

ようやくコロナ禍の終息が見えてきた中、誰もが明るい未来を信じて迎えた新年、未曾有の能登半島地震が起きました。その復旧・復興も道半ばながらも、少しずつ日常を取り戻しつつあった9月、奥能登豪雨が発生しました。「なぜ能登ばかり」という言葉も聞こえてくる令和6年は、生徒たちにとっても、激動の年度であったことは容易に想像されます。しかし、このような状況の中でも生徒たちは落ち着いて自らの学びに向き合い、部活動に励みました。発災以降、特に部活動においては、様々な変更や制約の中、大会に参加し、羽咋中学校らしい結果を残してくれました。

さて、24日の修了式まで、残すところ3週間となりました。現在、3年生は、来週11・12日の公立高校学力検査に向けて、集中力を持続させて頑張っています。1、2年生は、期末テストを終え、少しずつ暖かくなってきた春の日差しを感じながら、次年度の準備や部活動に意欲的に活動しています。私たち教職員も、3年生の頑張りを応援しながら、1、2年生の学力補充など新年度に向けた様々な準備を始めたところです。

今年度を振り返ると、生徒、教職員にとっては、充実した1年であったと振り返ることができます。これも保護者の皆様のご支援、ご協力があったることと心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大人への階段を登るために

3年生の皆さんへ 皆さんは、次の言葉を覚えていますか？

「人と比較して劣っているといっても、決して恥ずることはない。けれども、去年の自分と今年の自分を比較して、もし今年の自分が劣っているとしたら、それこそ、恥ずるべきことである」

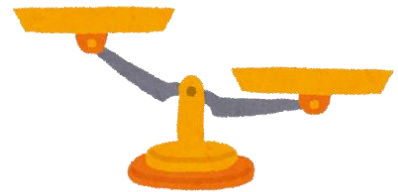
再引用となった私の好きなこのフレーズは、パナソニック創業者の松下幸之助の言葉で、皆さんに伝えたのは、ちょうど2年前のことになります。卒業を迎える皆さんに改めて、この言葉を送りたいと思います。

人は、どうしても他人と比較してしまいがちです。しかし、この言葉は本当に比べるべきは、他人ではなく自分だということを気付かせてくれます。過去の自分に比べて、今の自分はどれほど成長できたか。

これからはどのような自分でありたいか。自分の未来は、自分で創るということであり、それに見合う努力が必要であることを説いています。自分が負けてはならないのは他人ではなく自分自身だということを忘れず、今後も自分らしい人生を歩んでいってください。

4月から進学する高校は中学校とは異なり、義務教育ではありません。自分が望まないのであれば行く必要もないのです。いつまでも子供のような心で気持ちを切り替えないまましていると、延長線上にある中学四年生ということになってしまいます。これまで皆さんは、家族や先生を始め他者に導かれ、支えられてきました。どちらかと言えば自ら行動するというのではなく、「言われたからやっていた」ということが正直なところではないでしょうか。三年後には社会に出て、社会人として働く人も出てきます。社会に出て役に立つ人になるためには、人から言われなくても自ら判断し、主体的に行動するという姿勢が必要です。公立入試まで、あとわずかとなりました。まず、大人への階段を登る第一歩として、万全の準備をして入試を突破してください。心から健闘を祈ります。

最後に、卒業を前にして、様々な思いが胸に浮かんでくるものと思います。皆さんの充実した中学校生活は、その裏側には、皆さんを支えてくれたたくさんの方々がいる、いかに皆さんを大切に思ってくれていたかを胸に卒業式に臨んでください。皆で素敵な卒業式にしよう!! 学校長より



◇栄光の足跡

○石川県中学生選抜剣道大会

女子団体 3位 永原こはね 前波 香凛 高島 朱里 越智 愛心 松田 奈子
中林 依愛 向山こひろ

○第36回石川県読書感想画コンクール

自由読書 優良賞 中山日代里
指定読書 優良賞 坂本 優寿 酒井 紅羽

学校内外の行事から

◇1年 青春トーク(2/4)

羽咋ライオンズクラブ主催のパネルディスカッションは、今回で17回目となりました。今年はパネラーとしてメカニカルエンジニアの中條和さん、作業療法士の松田珠実さん、また、コーディネーターには圓山晃歩さんのいずれも本校の卒業生による楽しいトークセッションでした。それぞれの現在の仕事や生活などを織り交ぜながら、「今は勉強や部活動を頑張ることが大切。苦手なことにも挑戦して、努力を継続してほしい」とのメッセージをいただきました。



◇2年 立志の集い(2/13)

プロ卓球チーム「金沢ポート」代表取締役、監督、そして卓球専門店の経営の3つに携わっておられる西東輝さんをお招きして「夢を叶える7つの気」という演題で講演をしていただきました。「7つの気」とは、やる気、元気、活気、勇気、根気、本気、雰囲気のことです。これから自分の夢を叶えていくためのキーワードです。講演の後には、代表生徒3人による意見発表会も実施しました。生徒たちは、講演や仲間の発表を聴き、将来を見つめるよい機会となっていました。



◇1・2年 東大セミナー(2/17・18)

平教育振興基金からのご支援をいただいた「東大セミナー」が、1、2年生を対象に開催されました。今回は、日本エルディアイ取締役の川本雄介さんによる授業でした。将来の高校受験や大学受験への心構えや勉強法だけでなく、社会に出てからぶつかる問題をこれまでの経験した問題と関連付けて考えることの大切さなど、1、2年生6クラスを2日間に渡り、1時間ずつの特別授業で、生徒たちは大きな刺激をいただき、意欲が高まったように思います。



◇2年 高校説明会(2/20・21)

2年生とその保護者を対象に、実施しました。20日(木)は、鹿西、宝達、志賀、七尾東雲、羽咋工業、21日(金)は、石川高専、鵬学園、星稜、田鶴浜、七尾、羽咋の計11校の先生方及び本校の卒業生に自校の特色について説明していただきました。進路決定をしていかなければならない次年度を見据えて生徒たちは、真剣な眼差しで各校の説明に聞き入っていました。

「教育活性化プラン事業説明会」より

18日(火)、本校の取組について説明し、評価していただく会がありました。以下は成果と課題の抜粋です。

- 取組が充実していて明確である。
- 指導力向上に向けて授業整理会等きめ細やかな取組を実施している。
- 先進校視察により絶えず授業改善を目指している。
- ▲家庭学習の効果的な方法を生徒の実態に合わせて示すことが必要である。
- ▲学力調査や英検の取得率の数値目標を達成することができなかったが、今後も指導を継続してほしい。
- ▲英語力向上に向けて取組を充実させてほしい。

今年度の取組の成果と課題を分析し、反省点を踏まえて、生徒の学力向上を図る取組や豊かな心を育む活動の充実を目指します。

編集後記

「花は香り、人は人柄」という言葉があります。目立たない花であっても、その香りで人を引き寄せ、安らぎを与えてくれます。人も最終的には、人柄＝人間的な魅力で他を惹きつけるのではないでしょうか▼2学期に玄関前のガザニアの花壇に2年2組の生徒たちがボランティアで橋を架けてくれました。時期が来ると黄色い花が咲くガザニアを踏まないようにと▼生徒には、傲慢な人間として植物を踏みこむのではなく、足元の小さな生物にさえも、生命の息吹を感じる人になってほしいと願っています。他者への思いやり、優しさ、誠実さ、感謝の心こそが、その人の「香り」となり、周囲を魅了するのだと思います。(宮下)